

かいじネットワーク

猿橋の郷土史 継承へ

大月・住民ら団体 古文書デジタル化

大月市猿橋町の住民有志らが「猿橋史談会」を設立し、猿橋町の歴史を継承する活動に取り組んでいる。22日からは猿橋公民館で展示会を開く。会員はかつて北都留地域で栄えていた猿橋の歴史に興味を持ってもらいたいと話している。

〈飯野稔平〉

会の発起人は、同市猿橋町認定資格「生涯学習インストラクター」の一杉勝さん(82)と横濱ラクター(古文書)を取得した。一杉さんは甲府工高を卒業して東京都内の企業に勤務して東京市内の企業に勤務して定年退職後、古文書の歴史を調べようと、昔からの友誼力を養う講座を受け、一般人に声を掛けて、昨年3月に財団法人社会通信教育協会の会を設立。町内の家庭に眠る

古文書や古写真を借り、後世に伝えるためスキャナーで読み込み、デジタルデータ化を続けてきた。データ化した資料は、会のウェブサイトに「猿橋アーカイブス」で公開。資料約300点のほか、一杉さんによる解説も載せている。会の活動をより多くの人に知ってもらおうと、展示会を企画。猿橋町内の家並みを記した絵図のほか、猿橋警察署、第十銀行(山梨中央銀行の前身)猿橋支店を写した写真など約80点を紹介する。

会では今後も古文書や古写真を募り、デジタル化を進めていく方針。一杉さんは「家庭の中に眠る貴重な資料はまだあるはず。保存状態が悪くなったり、廃棄されたりしてしまふ前に、会へ保存していきたい」と話している。

展示会は24日まで。午前9時〜午後3時(22日は午後1時から、24日は正午まで)。



資料を読み解く猿橋史談会のメンバー

＝大月市猿橋町猿橋



赤池 悠、武田 寛明、森 航平(富士北麓)
飯野 稔平(大月上野原) 森 航平(都留)